

# 2021年3月期 決算説明会



DINER



SDL

2021年6月3日  
中央化学株式会社

---

---

---

# 1. 2021年3月期 決算実績

---

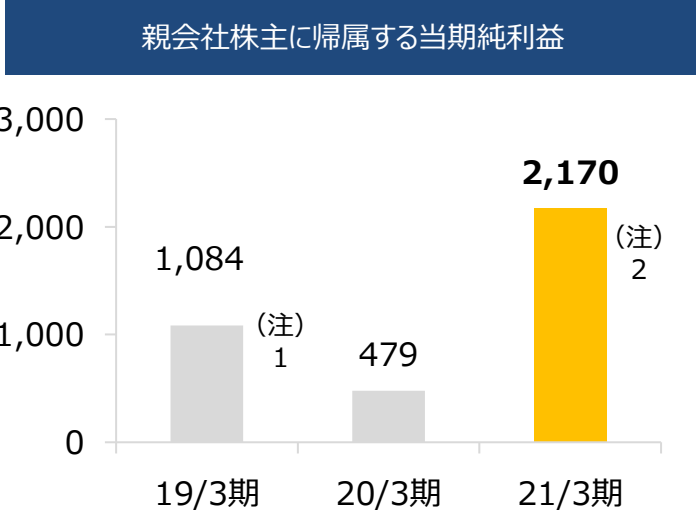
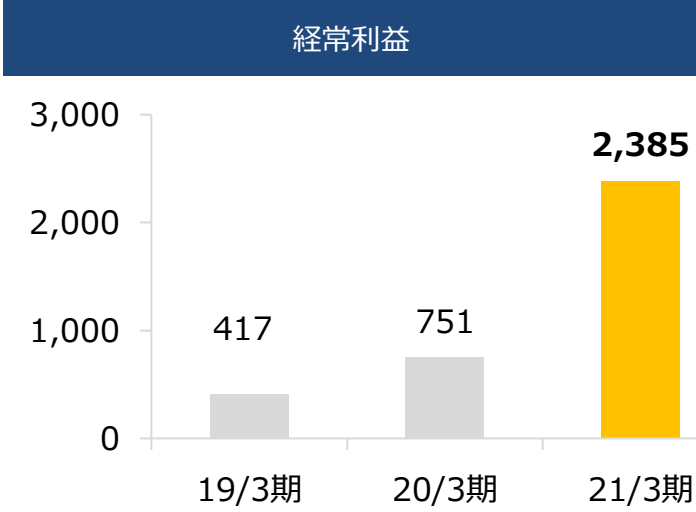
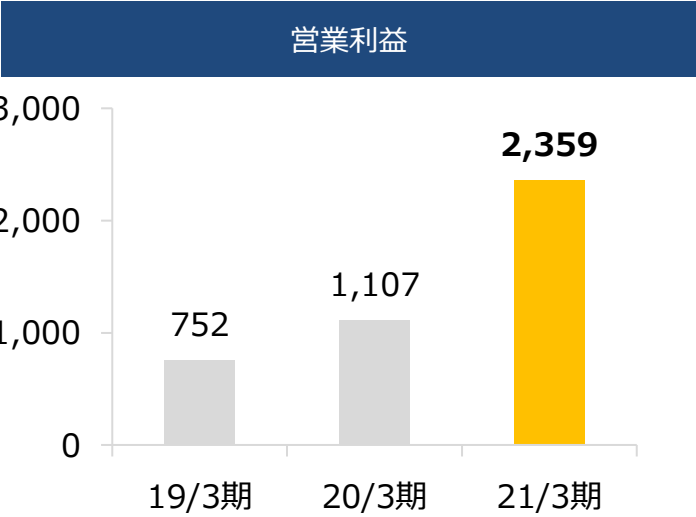
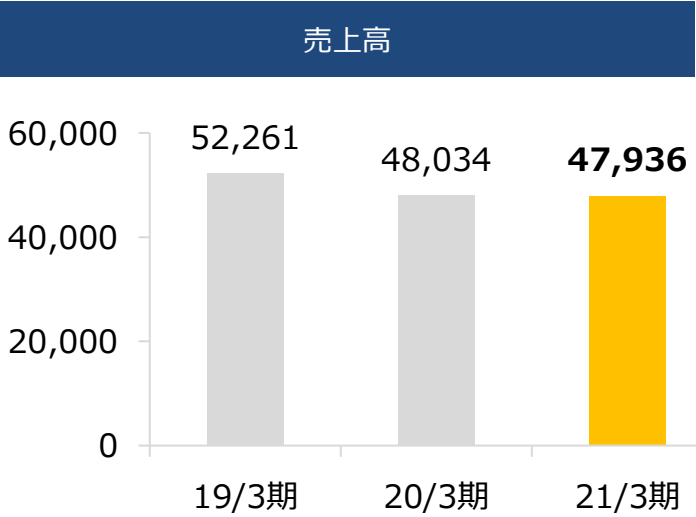
(百万円)

**売上高**  
**479億円**

**営業利益**  
**23億円**

**経常利益**  
**23億円**

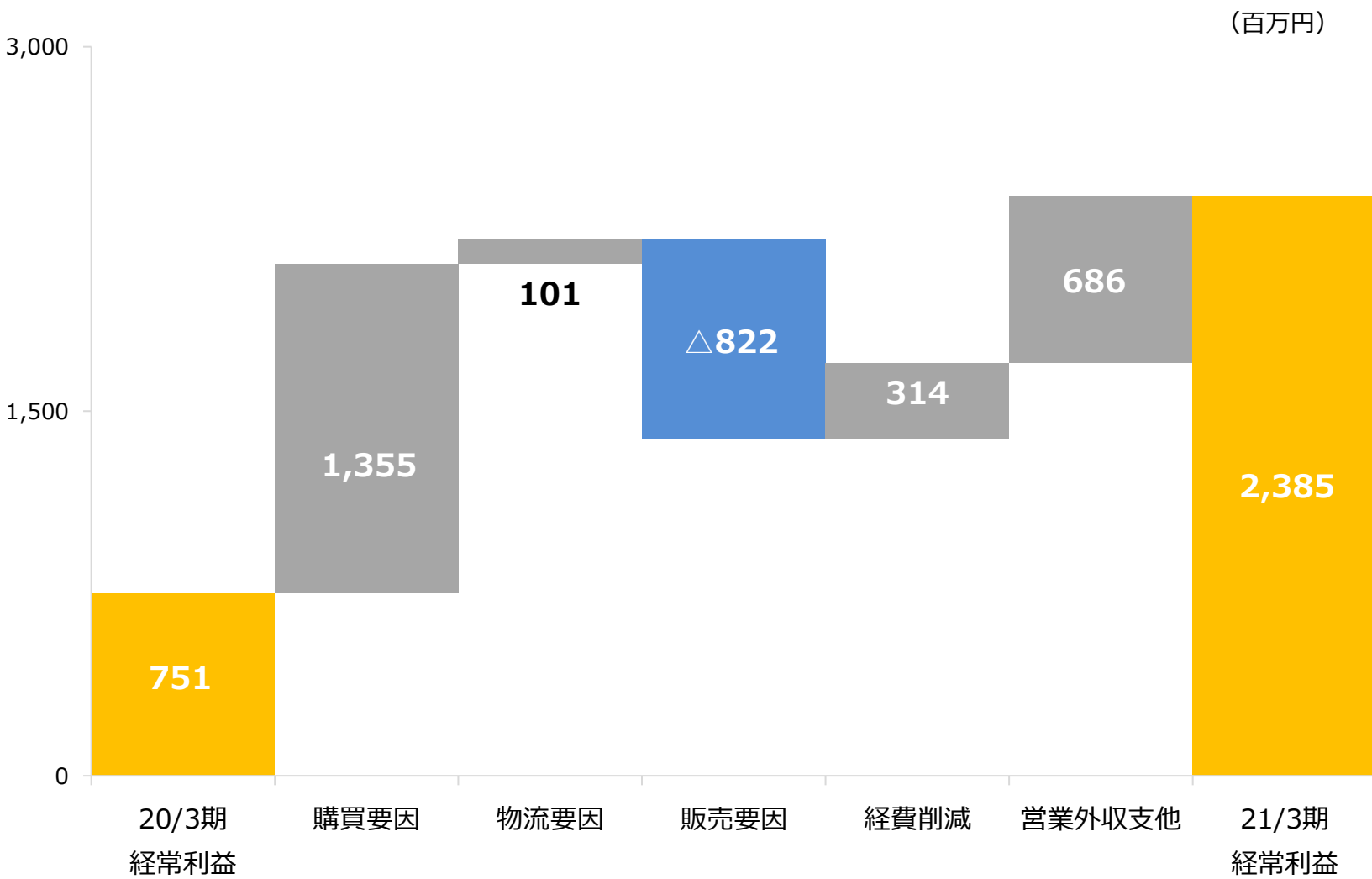
**親会社株主に帰属する  
当期純利益**  
**21億円**



(注) 1 2019年3月期において、関係会社株式売却益1,070百万円を計上しております。  
(注) 2 2021年3月期において、繰延税金資産回収可能性検討の上、法人税等調整額472百万円（利益）を計上しております。

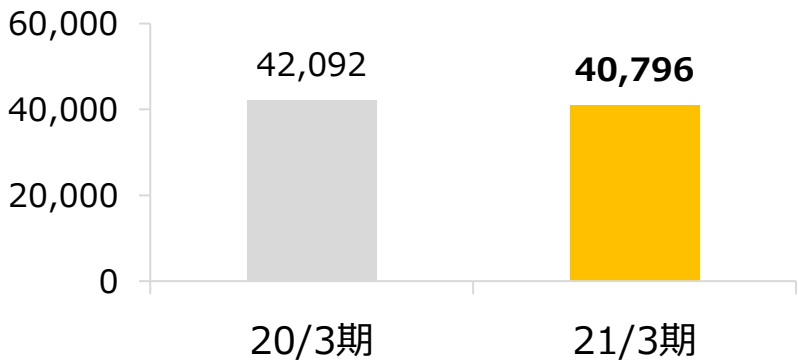
# 2021年3月期連結経常利益の増減（前年度対比）

1. 2021年3月期 実績

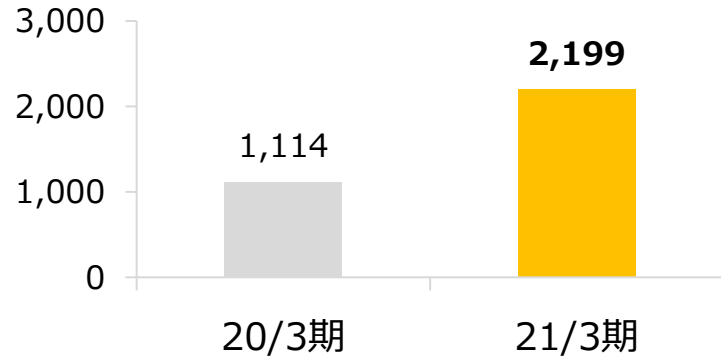


(百万円)

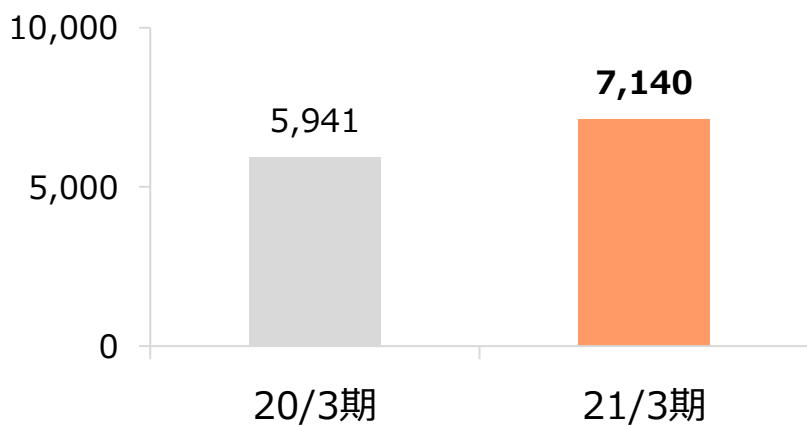
### 日本 売上高



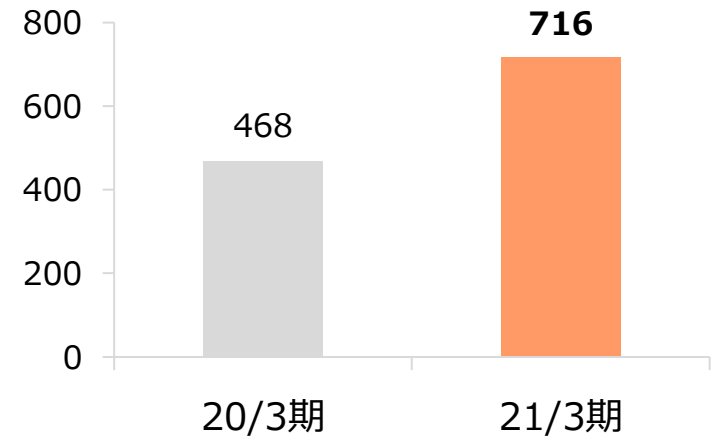
### 日本 セグメント利益



### 中国 売上高



### 中国 セグメント利益



(注) 上記セグメント利益は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用合計△556百万円差引前の営業利益になります。

# 連結貸借対照表

1. 2021年3月期 実績

(百万円)

	20/3期	21/3期	増減
流動資産	18,468	20,519	2,051
現金及び預金	2,845	3,584	739
受取手形及び売掛金	7,360	7,629	269
たな卸資産	6,778	7,064	286
その他	1,482	2,240	758
固定資産	16,140	15,975	△165
有形固定資産	15,127	14,484	△643
無形固定資産	385	374	△11
投資その他の資産	626	1,116	490
資産合計	34,608	36,495	1,887
負債合計	27,943	27,214	△729
うち有利子負債残高	12,345	11,266	△1,079
純資産合計	6,665	9,280	2,615
自己資本比率	19.3%	25.4%	6.2%
負債純資産合計	34,608	36,495	1,887

※百万円未満切り捨て

(百万円)

	20/3期	21/3期
営業活動によるキャッシュフロー	2,344	4,103
投資活動によるキャッシュフロー	△765	△1,496
財務活動によるキャッシュフロー	△2,283	△1,972
現金及び現金同等物に係る換算差額	△117	103
現金及び現金同等物の増減	△821	738
現金及び現金同等物の期首残高	3,661	2,839
現金及び現金同等物の期末残高	2,839	3,578

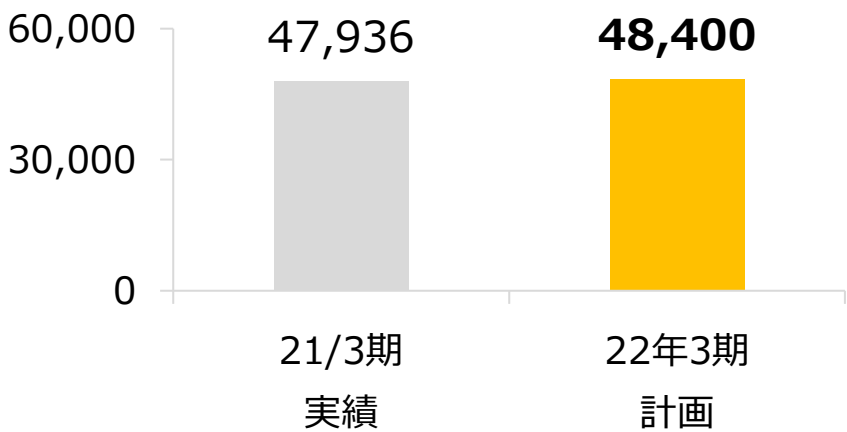
※△は減少

## 2. 2022年3月期 計画

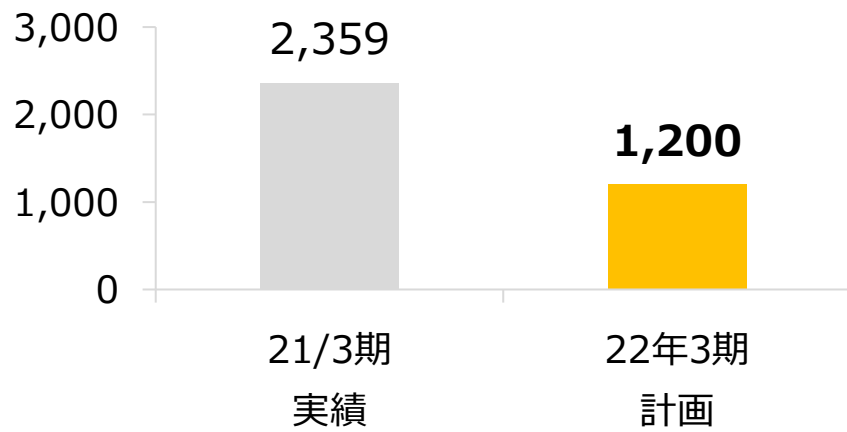
---



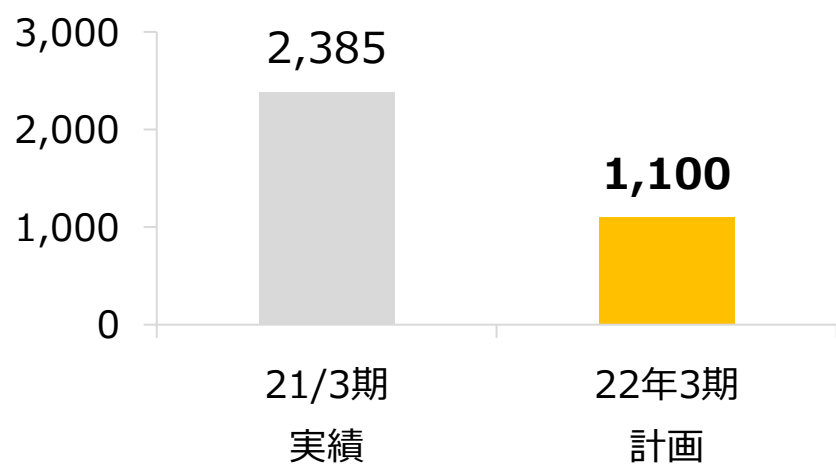
## 売上高



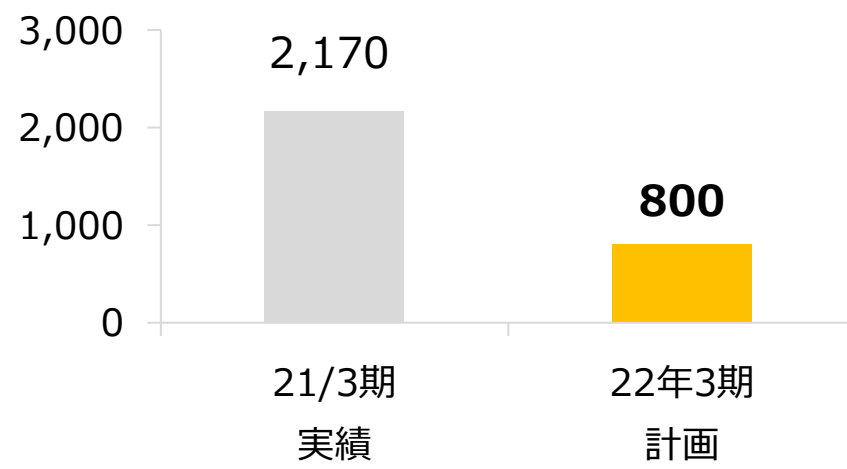
## 営業利益



## 経常利益



## 親会社株主に帰属する当期純利益



(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

### 3. 2021年3月期 振り返り

---

## (1) コロナ禍への対応

- ▶お客様と従業員の健康、安全を最優先する
- ▶「食」に関わる事業会社として、製品安定供給に最善を尽くす

## (2) 事業戦略の進捗

- ▶成長市場へのアプローチ
  - ✓環境配慮型素材・製品の拡充
  - ✓働き方、ライフスタイルの変化を通じて成長する市場への取り組み  
(フードデリバリー、テイクアウト等)
- ▶汎用容器事業の基盤強化
  - ✓オペレーション改革推進による競争力強化  
(素材・製品、モノ造り、SCMの切り口を通じて)
  - ✓品質、原価、提案力強化に向けた全社改善活動の推進

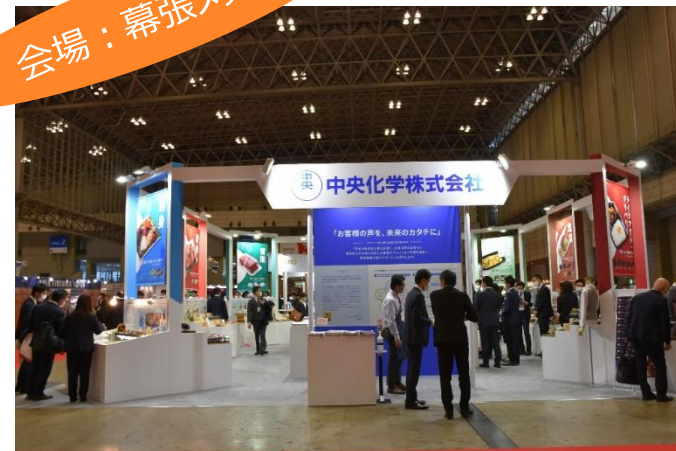
## (3) 中国事業の収益基盤強化

- ▶3拠点体制による生産最適化推進
- ▶市場ニーズに沿う新製品投入
- ▶環境配慮型素材・製品の品揃え拡充

## 展示商談会2021の開催

2021年2月に幕張メッセで開催されたスーパーマーケット・トレードショー2021に出展。当社事業戦略、環境課題への対応、新素材・新製品の紹介等を行う。

会場：幕張メッセ



展示商談会2021開催に伴い、常設展示並びにYouTube動画、オンライン展示会を開催中

### ■ 常設展示



- ・東京オフィス(大崎)にて開催

### ■ You Tube動画公開



- ・各カテゴリーブースごとに動画を公開

### ■ オンライン展示会



- ・各コーナー詳細情報
- ・デジタルコンテンツへ連動
- ・営業販促ツール

## 4. 2022年3月期 取り組み

---

## 基盤整備ステージ

## 飛躍と成長ステージ

2019年3月期～2021年3月期

2022年3月期～2024年3月期

### 経営戦略

- ✓ 地球環境保全・資源循環を念頭に、新市場・成長市場に取り組む
- ✓ 技術の革新を継続し、市場ニーズに応え、世の為、人の為の容器メーカーとなる
- ✓ 日本、中国の連携・協業を強め、わが社ならではの価値を生み出す

### 行動指針

1. 「魂」を込めてやり抜く

- 目標・計画を必達する「企業魂」
- 大切に大事に製品を造り上げる「モノ造りの魂」
- 愛着を持ち、お客様に感謝頂く「製品を愛する魂」

- 2. 創意工夫をこらし、新市場・成長市場に取り組む
- 3. 連携・協調・協業を大切にし、内を向くのではなく、新しいチャンスに挑戦する

### 2022年3月期 全社スローガン

### 「変革・挑戦・開発」

- ✓ 企業活動全般を抜本的に「変革」
- ✓ 成長市場、新市場の開拓に全社を挙げて「挑戦」
- ✓ 経営トップから一社員に至るまで全社員が創意工夫をこらして「開発」に取り組む

# 環境配慮型素材・製品の拡充並びにリサイクルの推進

日本版プラスチック資源循環戦略		当社の取り組み	
KEY ACTION	数値目標	方針	取り組み
<p><b>Reduce</b> <small>(リデュース)</small></p> <p>省資源化・廃棄物削減</p>	<p>・2030年までにワンウェイプラスチックを<b>累積25%排出抑制</b>を目指す</p>	<p>・製品の素材・設計変更により、<b>プラスチック(石油由来)使用量の低減</b>を図る</p>	<p>・環境配慮素材「<b>TALFA(タルファー)</b>」の製品拡充(※素材の半分以上タルク(滑石)を使用した素材)</p>  <p>・紙を主原料としプラスチックを50%未満混成させた素材「<b>MAPKA</b>」の開発・上市</p>  
<p><b>Reuse</b> <small>(リユース)</small></p> <p><b>Recycle</b> <small>(リサイクル)</small></p> <p>再利用・再資源化</p>	<p>・2030年までにプラスチックの再生利用を<b>倍増</b>する</p>	<p>・プラスチック<b>再生素材の有効利用</b>を促進する</p>	<p>・リサイクル素材「<b>C-APG</b>」の供給体制増強(※使用済みPETボトルの再生材を使用した素材)</p> 
	<p>・2035年までに使用済みプラスチックを<b>100%有効利用</b>する</p>	<p>・使用済みプラスチック食品包装容器の「<b>店頭回収リサイクル</b>」を強化する</p>	<p>・3つのリサイクルにて「<b>店頭回収リサイクル</b>」を全国展開</p> 
<p><b>Renewable</b> <small>(リニューアブル)</small></p> <p>再生可能資源の活用</p>	<p>・2030年までにバイオマスプラスチックを<b>約200万トン</b>導入する</p>	<p>・<b>バイオマスプラスチック</b>を使用した製品開発を推進する</p>	<p>・バイオマス原料配合素材「<b>バイオCT・CF</b>」の開発・上市</p>  <p>・紙を主原料としプラスチックを50%未満混成させた素材「<b>MAPKA</b>」の開発・上市</p>  



## C-APG

### C-APG (シーエーピージー) 容器とは

リサイクルPETを主原料とした環境配慮型の食品包装容器です。

<2種 3層シート>

バージン原料	中層
再生原料 (RFDA・AFDA)	
バージン原料	

PETはリサイクルに最も適したプラスチックとして欧米では評価されています

### C-APG 容器の特徴

- ①FDA (アメリカ食品医薬品局) 基準を満たしたリサイクル素材を使って、**安全性**を確保しています。
- ②高級青果、寿司・刺身容器などで**清涼感**を演出。加えて、**密閉性・衛生性・作業性**等の機能充実にも力を入れています。

密閉

衛生

### お客様に地球環境に配慮した容器を使用していることを訴求できます

- ①リサイクルし易い素材を選択することで「プラスチック資源循環社会の実現」に向けた企業方針を伝えられます。
  - \*政府はプラスチック循環戦略の中で“2035年までに使用済みプラスチック100%リユース・リサイクル”を表明しています
  - \*弊社はメーカーとして再生し易い素材、再生し易いデザイン(モノマテリアル、モノカラー、モノトーン)を探索します。
- ②CO2排出量27%削減
  - \*バージンPET容器との比較です

※エコマーク認定を取得しています

中  
央

## 中央化学株式会社

<https://www.chuo-kagaku.co.jp/>  
 〒365-8603  
 埼玉県鴻巣市宮地3丁目5番1号  
 (TEL)048-540-1239 (FAX)048-540-2890





# TALFA

## TALFA (タルファー) 容器とは

天然鉱石タルク(\*)を主原料とした  
環境配慮型の食品包装容器です。

(\*)タルクは陶磁器、化粧品、ペーパーパウダー、食品(ガム等)にも  
使用される素材です。ポリオレフィン等衛生協議会の  
PL(ポジティブリスト)にも収載されています。



## TALFA 容器の特徴

- ①レンジアップ可能な耐熱性
- ②弁当・惣菜などの包装に適した  
耐水・耐油性  
\* 国の規格基準である告示370号衛生試験に合格、  
全ての食品用途(水性・酸性・酒類・油類)に適合  
しています。
- ③紙等と同様に「一般家庭ごみ」  
としての廃棄処分が可能  
\* 詳しくは各自治体の分別ルールをご確認ください。
- ④容り法(プラマーク)対象外の素材  
(「その他複合素材」に区分される素材です)



お客様に地球環境に配慮した容器を  
使用していることを訴求できます

- ①CO2排出量49%削減  
\* PP容器との比較です
- ②水資源や森林資源に対する  
負荷が少ない素材です  
\* 製造過程においてほとんど水を使わず、  
木材を原料としていません。

**中 央 化学株式会社**

<https://www.chuo-kagaku.co.jp/>  
〒365-8603  
埼玉県鴻巣市宮地3丁目5番1号  
(TEL)048-540-1239 (FAX)048-540-2890



### MAPKA (マブカ) 容器とは

紙パウダー を主原料とした  
環境配慮型素材を使った  
食品包装容器です。

### MAPKA 容器の特徴

紙容器とプラスチック容器の  
強みを組み合わせた ハイブリッド

- ① レンジアップ可能な耐熱性
- ② 弁当・惣菜などの包装に適した  
耐水・耐油性
- ③ 紙と同様の廃棄処分が可能

\*国の規格基準である告示 370 号  
衛生試験に合格、全ての食品用途  
(水性・酸性・酒類・油類) に適合しています。

\*詳しくは各自治体の分別ルールをご確認ください。

ごはん粒、  
くっつかない  
油染みしない

＜2層3層イメージ＞	
PP層	
紙パウダー+PP層 (紙 55%)	
PP層	

※トータル 紙 51%

### お客様に地球環境に配慮した容器を 使用していることを訴求できます

- ① CO2 排出量 41% 削減できます。  
※PP 容器との比較です
- ② バイオマス素材の使用で  
持続可能な開発目標 (SDGs) に  
貢献できます。

※バイオマス 50 素材として一般社団法人  
日本有機資源協会の認定を受けています。

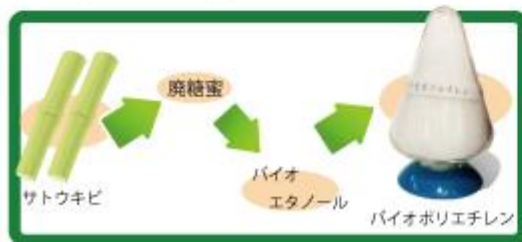
**中央化学株式会社**  
<https://www.chuo-kagaku.co.jp/>  
 〒365-8603  
 埼玉県鴻巣市宮地 3 丁目 5 番 1 号  
 (TEL)048-540-1239 (FAX)048-540-2890

## バイオCT・CF

### バイオCT・CF 容器とは

植物由来の有機性資源を使用した環境配慮型の食品包装容器です。

サトウキビがバイオ原料になるまで



お客様に地球環境に配慮した容器を使用していることを訴求できます

① CO2 排出量 7% 削減できます。

※CT 容器との比較です

② バイオマス素材の使用で  
持続可能な開発目標 (SDGs) に  
貢献できます。

※バイオマス 10 素材として一般社団法人  
日本有機資源協会の認定を受けています。



**中央化学株式会社**

<https://www.chuo-kagaku.co.jp/>

〒365-0603

埼玉県鴻巣市宮地 3 丁目 5 番 1 号

(TEL)048-540-1239 (FAX)048-540-2890



## ロングライフ容器 Ever Value

### Ever Value 容器とは

鮮度の良い食品とそれに適した鮮度保持ガス（窒素・酸素・CO<sub>2</sub>を配合調整）をガスバリア機能を付与した容器とフィルムで密閉し、食品の酸化・菌の増殖を抑制するとともに、食品の鮮度保持を可能とする容器です。

### Ever Value 容器の特徴

フードロス 年間 612 万トン

私たちができること  
機能性容器による貢献

従来品との比較

鮮度保持ガスを注入し、菌の増殖を抑制し、食材の鮮度を保ちます。

### ここに貢献

#### 食品ロス削減推進法

2030年までにサプライチェーン全体において2000年度対比で食料の廃棄を半減

**中興** 中央化学株式会社

<https://www.chuo-kagaku.co.jp/>  
 〒365-0603  
 埼玉県鴻巣市宮地 3丁目 5番 1号  
 (TEL)048-540-1239 (FAX)048-540-2890

## － リサイクル三原則 －

中央化学では、リサイクル三原則に従って

**安全・安心**な環境配慮型製品の企画、循環型リサイクルシステムの構築を推進します

### ① 衛生安全性の確保

リサイクル製品においても衛生安全性の厳守は課せられた責務であると考えています

### ② 循環型リサイクルシステムの構築

すべての素材に適応するリサイクルシステムづくりに挑戦します

### ③ 経済性の確保

経済合理性の伴った息の長いリサイクル活動を推進していきます

## － リサイクルの歴史 －

1970年代

1979年 東京・町田市で使用済みトレ回収実験を実施



1980年代

1990年 使用済みPSPトレの店頭回収リサイクルに着手

1993年 サンドイッチ射出技術を開発し、リサイクル製品・エコシリーズ販売



1990年代

2007年 容器包装3R推進環境大臣・奨励賞を受賞

2009年 新日本製鐵(現：日本製鉄)とケミカルリサイクル・コークス炉化学原料化法で協力体制を確立



2000年代

2015年 ウツミリサイクルシステムズ社との合併企業APETウエスト社を設立し、再生PET事業に参画

2010年代

2016年 再生PET原料を使用した



製造販売を開始

2017年 エコマークアワード2016「銀賞」受賞



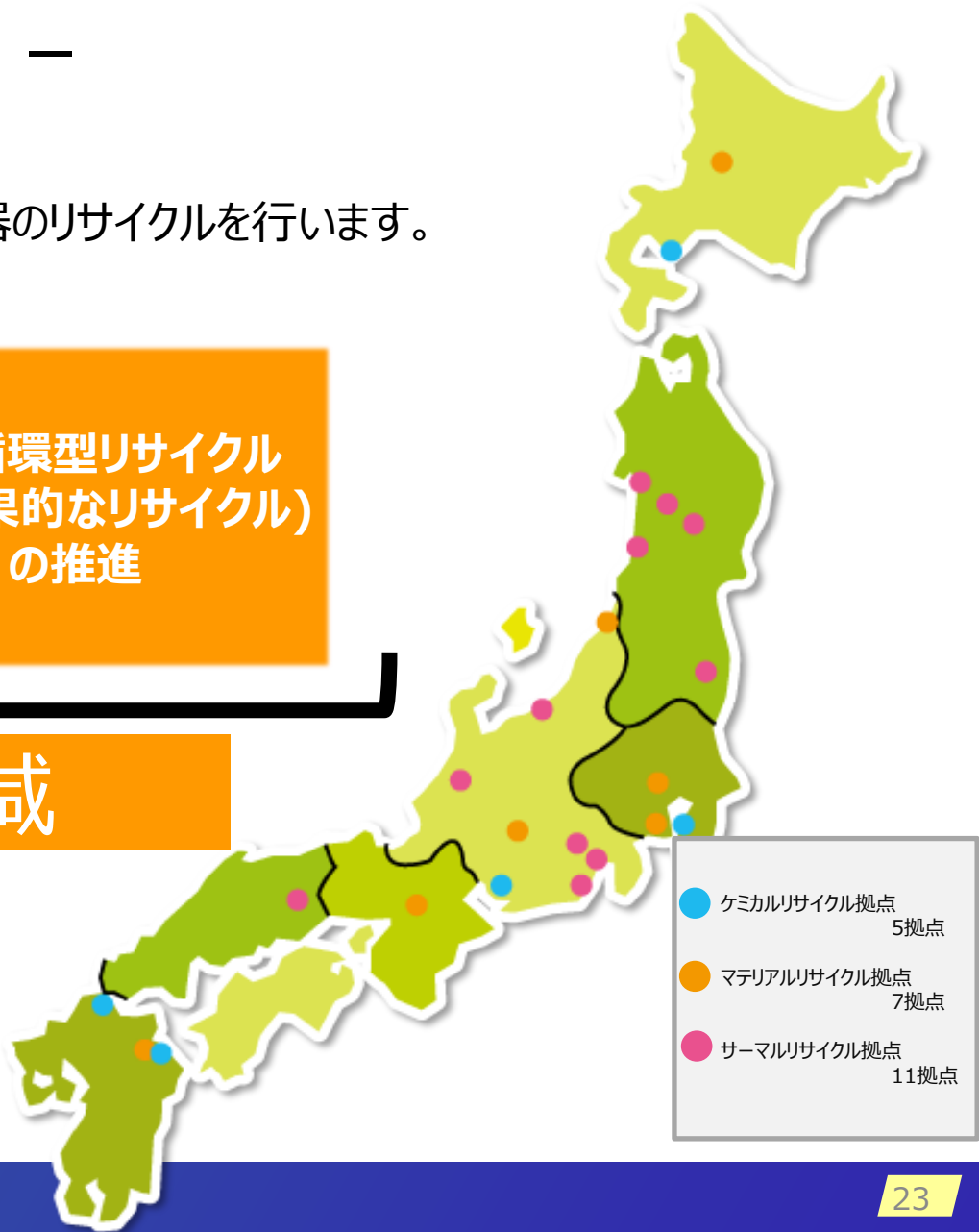
## － 店頭回収リサイクル －

エリア毎に地域のリサイクル業者と連携し、最適な仕組みで使用済みプラスチック容器のリサイクルを行います。

最適なリサイクル手法  
の提案

地域循環型リサイクル  
(=効果的なリサイクル)  
の推進

環境負荷低減



# 5. 中国事業 取り組み

---



## (1) コロナ禍への対応

- ▶お客様と従業員の健康、安全を最優先する
- ▶「食」に関わる事業会社として、製品安定供給に最善を尽くす

## (2) 事業戦略の進捗

- ▶競争力強化に向けた施策
  - ・省人化投資による生産効率の改善
  - ・再生原料の有効活用等による原価低減
  - ・A-PETの押出・成型一貫生産スタート
  - ・信賞必罰を徹底する人事制度導入
- ▶国内市場での取り組み
  - ・在中国日系CVSチェーン等大手顧客への拡販
  - ・東北地区現地系CVSチェーン等新規顧客の開拓

## (3) 新たな市場ニーズへの対応

- ▶環境配慮型製品の拡充
  - ・木製カトラリー製品
  - ・パルプモールド製容器
  - ・生分解性レジ袋
- ▶環境配慮型素材の開発
- ▶日中連携の強化
  - ・中国製環境配慮型製品の日本市場への提案
  - ・米国、欧州各国環境対応に関する情報収集

## ■ 全体目標

世界的な非分解性プラ製品に対する削減・禁止の動きに対応して経営を安定化させ、更なる成長実現のために生産、営業、管理基盤を確立する

## ■ 取り組み

- 市場ニーズ（環境配慮、機能性）にマッチする新素材・新技術の開発と量産体制の確立
- 生産効率化・省人化を継続して推進
- 日本本社との連携・協業加速
  
- 環境配慮型素材の開発、上市を加速
- 環境配慮型素材・製品を梃子とした新市場、成長市場での拡販

## ■トピックス

### ◆顧客ニーズに沿った製品の市場投入

✓積み重ねブロック容器

⇒宅配市場対応製品。蓋の突起で容器を固定することで、積み重ねをサポートする機能を備えた容器。



✓改ざん防止容器

⇒蓋の開け口をミシン目することで、一度開封すると再び蓋をすることができない容器。



### ◆非プラスチック商材の市場投入

✓木製カトラリー

⇒石油由来成分の素材から、木製素材に変更することで、CO<sub>2</sub>排出を削減。現在日本市場向け製品を販売を開始。



✓パルプモールド容器

⇒100%植物由来であるパルプモールド製品の開発と販売開始。

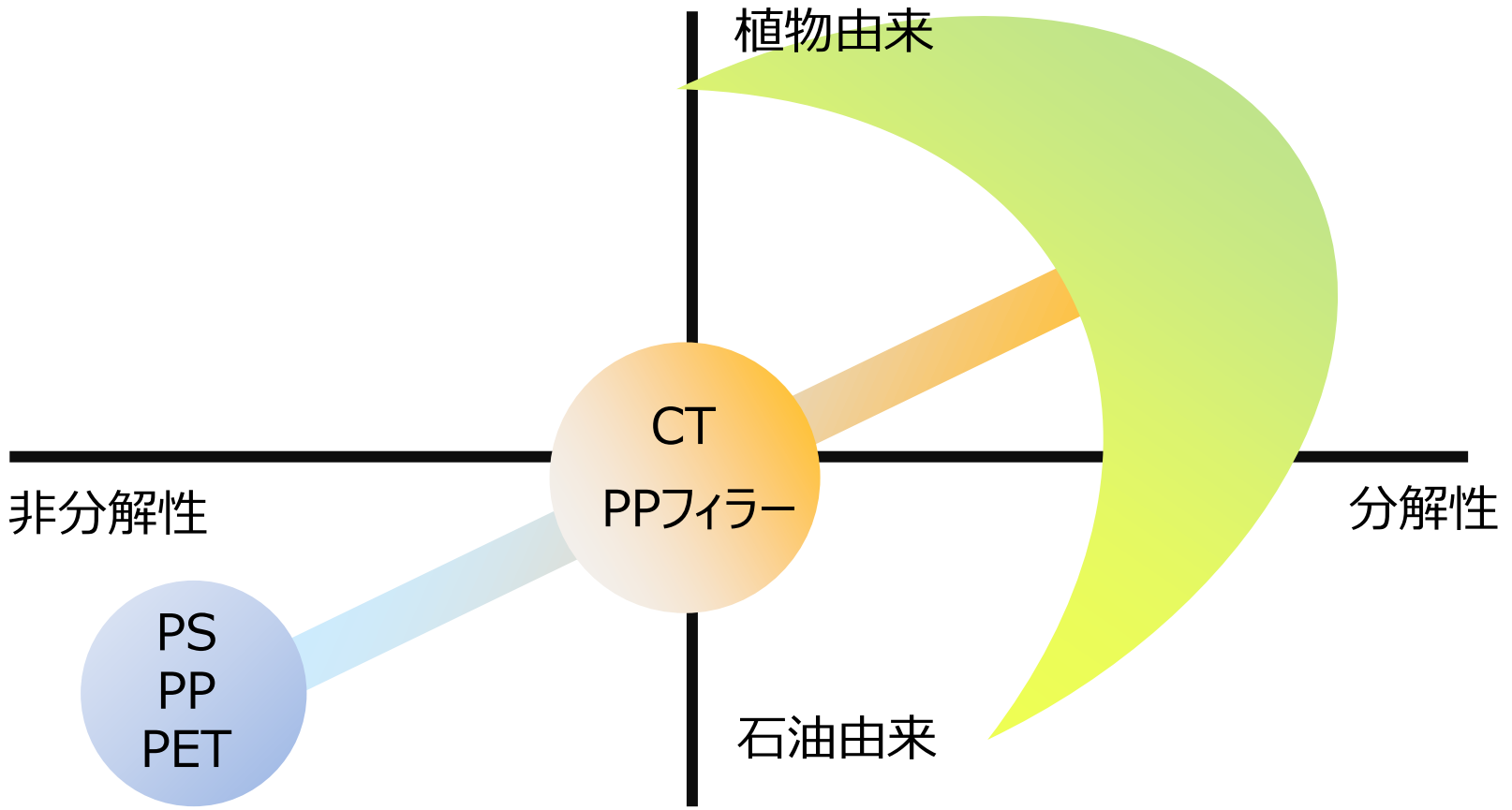


✓生分解レジ袋

⇒生分解レジ袋の開発、製品化に取り組む。今回の規制を受け大手CVS、スーパーに採用。



2025年より非分解性素材の包装容器への使用制限に向けて対応を検討中。先行して規制が開始されるレジ袋やカトラリー類の動向を見ながら当社にとって競争優位な素材の開発を進めていく予定。



本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。